

J-POWERグループの価値創造の歴史

- J-POWERグループは「人々の求めるエネルギーを不断に提供し、日本と世界の持続可能な発展に貢献する」という企業理念に基づき、70年以上にわたり時代のニーズに合わせて、グローバルに事業を展開してまいりました。
- 今後も、エネルギーの安定供給と気候変動の両立という地球社会の要請に応えながら、持続的な企業価値の向上を実現してまいります。

戦後の電力不足～高度経済成長期

大規模水力・国内炭火力の建設

戦後の電力不足解決のために大規模なダム・水力発電所を建設しました。また、国内炭を燃料とする火力発電所により高度経済成長期を支えました。

揚水発電所や地域間連系線の整備

ピーク需要に対応する大規模揚水発電所や地域間を結ぶ連系設備の整備を進めました。

海外コンサルティング事業の開始

海外では発電所や送電線建設に関する技術支援やコンサルティング事業を通じて各国の発展と日本との間の信頼関係構築に貢献しました。

石油危機、環境問題への関心高まり

海外炭火力の開発による電源の多様化

2度のオイルショック以降、電源の多様化と安定的な資源調達ニーズが高まる中、国内初となる海外炭を燃料とする石炭火力発電所の建設や海外炭鉱権益の取得を行いました。

風力発電の開発に着手

地球環境問題への関心が高まる中、2000年には国内でいち早く大規模商用ウインドファームを稼働させ、脱炭素化の選択肢を広げていきました。

グローバル展開・気候変動問題への対応

グローバル展開

2004年の完全民営化後、アジアや米国を中心に世界で発電事業を拡大し、利益成長につなげています。

エネルギーの安定供給と気候変動対応の両立

エネルギーの安定供給を続けながら、2050年カーボンニュートラルへ移行するために、国内外での再生可能エネルギーのさらなる拡大、原子力発電所の建設、火力発電所のゼロエミッション化などに取り組んでいます。



発電設備出力と民営化後の経常利益の推移

